

佳作

一生演奏家

福島県いわき市立玉川中学校

1年 加賀 琉那

私は、4月に中学校に入学してから、吹奏楽部に所属している。そして、トランペットのパートを練習している。今、生活の中で一番部活が楽しい。トランペットを吹くことが楽しいと思う。

私がトランペットに興味を持つことになったきっかけは、父がトロンボーンを演奏していることだ。父は、時々、トロンボーンの練習に行く。私は小さいころから父の練習や、楽器屋さんについて行くことがあった。トロンボーンを持たせてもらうこともあった。でも、トロンボーンは私には大きかったので、小学生の終わりごろ、父は、練習用のトランペットを買ってくれた。自分専用の楽器がうれしくてどきどきした。初めてそのトランペットに息を吹き込んだとき、トロンボーンよりずっと高い音が出た。びっくりして、またどきどきした。いつか、この楽器で曲が吹けるようになりたいと思った。

でも、私には、脳神経の持病があって体がうまく動かせないときがある。特に、手や指先は思いどおりに動かないことが多い。幼稚園から8年間習っていたピアノは、とうとう指がうまく動かなくなってやめた。小学校のときの、音楽のソプラノリコーダーは、思い出したくないぐらいできなかった。トランペットも思いどおりに指が動かないときがある。それがとてもくやしい。

それでも私は、音楽が好きだ。父の影響かもしれないと思う。父は、小さいころから、いろいろなコンサートや演奏会に連れて行ってくれた。バレエも習わせてもらっていて、音楽に合わせて踊るのが楽しい。上手には踊れなくて、音楽に合っていないこともあるけれど。私の家族には、運動が得意で音楽のことはよく分からないという母と、中学時代はバレーボール部で今は演劇にはまっている大学生の姉がいる。その中で、私と父は、音楽のことになるといつまでも動画を見たり、いろいろと検索したりして、すっかり夜が遅くなるまで盛り上がってしまう。演奏会のDVDを見たり、好き勝手に感想を言ったり、まねをしたり。父と私にだけ分かる楽しさがある。そして、母からいい加減に早く寝るように怒られる。それも楽しいと思う。

今の私のエネルギーになっているのは、トランペットを吹くことだ。すぐに指を動かすことはできないし、上手にできないことが多いけれど、練習をするのが嫌だと思ったことはない。私は小さい頃から薬が嫌いで、薬を飲むのが嫌で吐き出していたため、風邪から肺炎になったほどだけれど、今、少しでも体

がスムーズに動くようになるために、毎日きちんと薬を飲んでいる。東京の病院まで行かなくてはならないことも毎回疲れるし、好きではないけれど、きちんと行こうと思う。今より少しでも指が動くようになったらいいと思う。そして、中学校を卒業したら、高校でまたトランペットの演奏ができるようにしたい。高校を卒業しても大人になっても、ずっとトランペットを演奏していたと思う。父のように、楽器を演奏することが好きで、音楽が好きな大人になりたい。

私にはトランペットについての夢が二つある。一つは、いつか父と一緒に演奏することだ。父のトロンボーンと私のトランペットで演奏したい。そして、姉はピアノができるので、姉にピアノをお願いして、母には何かできそうな楽器を練習してもらったら、家族で合奏ができて楽しいだろうと思う。母にはだいぶがんばってもらうことになるかもしれない。もう一つの夢は、誰かに感動を与えるような演奏をすることだ。私のトランペットで、聴いた誰かが元気になったり、勇気を持てたり、幸せな気持ちになったりしたらとてもうれしいと思う。楽しい気持ちやうれしい気持ちをトランペットの演奏で届けたい。悲しい気持ちや悔しい気持ちも表現したい。そして、いつか、聴いた人の心に残るような演奏ができるようになりたいと思う。

これから、玉川中学校吹奏楽部の一員として経験できることを大切に、先生や先輩たちからたくさんのことを教わっていきたいと思う。きっと、楽しいことがあるのと同じぐらい、くやしいこともあると思う。大変なこともあるかもしれない。それでも、私の未来には、音楽があって、トランペットがある生活があると思っている。